OB便り

第20号
京都外国語大学 能楽部 OB会

新OBの自己紹介

今春、期待に胸をふくらませ、社会の一員となり、会社にも慣れ一段落の新OBからの自己紹介です。

1. 角 孟典（英米語学科卒）

私は今年三月に卒業し、株式会社・某一教研に入社致しました。現在、大阪府貝塚市の貝塚教室で、塾の講師として、小学生、中学生に「国語」を教えています。（自宅在住）入社後三ヶ月あまりたち、ようやく仕事に慣れてきましたが、まだまだほんの駆け出しで、毎日忙しく生徒と奮闘しています。大学時代、教育という分野で職を得ようなどとは全く考えていなかった私ですが、やりがいのある仕事で、とても満足しています。何はともあれ子供達との触れあいは、楽しいものです。

そんな忙しい日々の中にあって、ふと自分自身を見つめ直す時、しみじみと思い出されるものがあります。そしてそれは、やはり今の自分を大きく培ってくれた外大能楽部での四年間に他なりません。昨年、第二十四回外大能で能楽「田村」前シテを勤めさせて頂きましたが、厳しい稽古を通じて、また「舞台」というものを通じて、能楽のすばらしさとその奥にある厳しさを教えて下さった謡本磯道先生には、本当に感謝の気持ちで一杯です。振り返ってみると、私が能楽部で過ごした四年間は、日々、周囲の多くの人々によって支えられてきたものだということを、あらためて感じます。また私自身も、たくさんの人と出逢い、その交わりの中で、私なりの「生きる姿勢」みたいなものを強く学び得たような気がします。素直な心で何事にも一生懸命になれたこと、多くの人と純粋な人間らしいつながりが持てたことを、大変嬉しく思うのです。そしてこの度、何とか能楽部OB会の末席に加えて頂くことになりました。とても光栄に思います。四年間ご一緒したクラブを誇りに思い、また、これからは、OBのひとりとして京都外大能楽部の益々の発展の為、微力ではありますが少しでもお役に立てるよう尽力したいと考えています。

2. 柴田 圭一（英米語学科卒）

この度、新しくOB会に入らせていただくことになりました柴田圭一と申します。よろしくお願い致します。

在会人になり、はや三ヶ月が過ぎ、ようやく日常の仕事にも慣れてきたところです。現在、私はローソンの府立体育館前店で在員として働いています。24時間営業のコンビニエンス・ストアであるため、深夜勤務もあり、生活リズムが不規則になりやすいので体調を崩さないように気をつけています。時間がたくさんあり何をしてもよかった学生時代とは異なり、初めは毎日拘束された仕事をすることに戸惑いもありましたが、最近はそれも消えて働けるようになってきました。仕事がつらい時や苦しい時、あるいは嬉しい出来事があった時など、頑張れたのだから仕事もできるんだと自分自身に言い聞かせています。

昨年の第二十四回外大能では、星野君と松山君が「海士」を演じ、角と僕とで「田村」をやらせてもらいました。その時の感動は今でも忘れていません。まるで、昨日の事のように思い出されます。それと、なによりも嬉しかった事は、今自主全員が舞台で能を舞うことが出来、しかもそれぞれの個性の出せた舞であったということです。これも、皆が今日まで真剣にクラブ活動に取り組んだ賜物であったと思います。

今になって、能楽部で過ごした四年間は、日々、周囲の多くの人々に本当に感謝の気持ちで一杯です。振り返ってみると、私が能楽部で過ごした四年間は、やはりこれからの人生の中にあって、ふと自分自身を見つめ直す時、しみじみと思い出されるものがあります。そしてそれは、やはり今の自分を大きく培ってくれた外大能楽部での四年間に他なりません。昨年、第二十四回外大能で能楽「田村」前シテを勤めさせて頂きましたが、厳しい稽古を通じて、また「舞台」というものを通じて、能楽のすばらしさとその奥にある厳しさを教えて下さった謡本磯道先生には、本当に感謝の気持ちで一杯です。振り返ってみると、私が能楽部で過ごした四年間は、日々、周囲の多くの人々によって支えられてきたものだということを、あらためて感じます。また私自身も、たくさんの人と出逢い、その交わりの中で、私なりの「生きる姿勢」みたいなものを強く学び得たような気がします。素直な心で何事にも一生懸命になれたこと、多くの人と純粋な人間らしいつながりが持てたことを、大変嬉しく思うのです。そしてこの度、何とか能楽部OB会の末席に加えて頂くことになりました。とても光栄に思います。四年間ご一緒したクラブを誇りに思い、また、これからは、OBのひとりとして京都外大能楽部の益々の発展の為、微力ではありますが少しでもお役に立てるよう尽力したいと考えています。

3. 松山 美智（英米語学科卒）

諸先輩方、ご無沙汰しております。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

現在私は大阪府立の高校で英語科の講師として働いています。毎日が、いや毎授業が興奮と冷や汗の連続です。まるで舞台に立つときのような。先日、ある先生がおっしゃっておりました。「教師というのは、その教室という舞台において主人公であってはならない。有能なディレクターであるべきだ。」と。これは私にとってとてもありがたい言葉でした。ややすると、教師一人が突っ走ってしまいがちな教室において、あくまで生徒が主人公となるべきであって、決して観客にしてしまってはいけないのです。これは教師と生徒の関係についてだけではなく、クラブに於ける先輩、後輩の間に関しても言えるのではないかとふと能楽部時代を思い出しました。そう思えば、もう少し肩の力を抜いて後輩たちと接することができたのではないかと。

しかし、このようなちょっとした言葉から学生時代の自分の経験を思い出すことが出来たというのは大変幸せだと思います。実際経験したことだからこそ、今、実感として、なる程と思えるし、又これからも心に留めておくことが出来るように思います。

大学時代の4年間、私の場合、名ばかりで四年間通すことのできた能楽部での貴重を、皆のおかげで四年間通すことのできた能楽部での貴重を、やはりこれからも活かしてゆこうと思います。

とうとう今年からOBの仲間入りをさせて頂きますが、先生、諸先輩方、これからもどうぞよろしくお願い致します。

4. 星野 頼子（仏語科卒）

今年度より新しくOB会の会員となりました。就職して早くも4ヶ月がすぎようとしています。まだ、学生気分の抜けない私です。

先日、OB交歓会に出席させて頂きました。若い回生の顔ぶれにとてもなつかしい思いがしました。昨年の十二月に舞台をふんでいたことは、とても遠い昔のようです。

すっかり、クラブからは離れてしまいましたが、やはり親しくしていた後輩にありたいと思う気持ちはかくせません。

今まで上級生でしたが、今度からは、後輩たちの仲間入りをした一回生の気持ちです。四年間、つづけてこれたことを、今となってよかったと思っています。OBとしての実感はありませんし、そうしていることもしてはいません。